

中国・樺太帰国者文化祭



11月4日東区民センター大ホールにて「中国・樺太帰国者文化祭」を開催しました。帰国者34名、支援者11名が参加し、それぞれの持つ文化を通じて交流しました。中国帰国者有志が踊りや歌を披露したほか、日本語教室で作成した動画、これまでのセンター活動を振り返るスライドショーの上映、クイズやじゃんけん大会などの楽しいプログラムもあり、盛りだくさんの内容でした。一般支援者の方も舞台上で「ひよっこ踊り」を披露してくれました。フリーダンスに続き、最後は中国のヤンガー踊りで締めくくられました。

帰国者のみなさんには、もともとバックグラウンドとして持つ文化とともに、新たに日本で様々な知識や体験を得ながら生活しています。それらを皆で共有するときとなりました。

帰国者の持つ文化を共有し、交流



← 日本語実践1クラスによる「梁山泊と祝英台」。中国版「ロミオとジュリエット」とも呼べる物語です。

昨年受講生みんなで作り上げた「裸の王様」も上映されました。



会場の一隅で「帰国者作品展」を開催。帰国者による絵画、書、手芸作品、パソコン教室や絵手紙教室での作品を展示しました。 →



↑
最後はやっぱりヤンガー踊り。中国帰国者も樺太帰国者も支援者も、みんなで扇子を持って練り歩きました。

文化交流会

中国とロシアのお菓子づくりに挑戦！！



「帰国者文化祭」と同日の午前中には、東区民センターの実習室で「文化交流会」を開催しました。中国、樺太帰国者それぞれ1名が講師となり、中国とロシア両方のお菓子を作りました。参加者のみなさんは、特色の異なる二種類のお菓子づくりを体験することができました。

中国のお菓子は、三種類の生地を組み合わせるサクサクパイ（酥餅）。干して色をつけた大根の皮など、珍しい食材も使われました。日本で中国料理店を営んでいた経験を持つ松本秀代さんが講師となりました。

ロシアのお菓子はバターとはちみつを使った風味豊かなオートミールクッキー。講師の菅原リュドミラさんは、ロシアでパティシエとして働いていました。講師の二人は各テーブルを回りながら丁寧に指導し、教わる時も真剣に取り組んでいたのが印象的でした。

出来上がったお菓子はラッピングして、文化祭の参加者に配られました。



菅原リュドミラ先生



松本秀代先生



お正月リースを作りました！

12月22日稚内市で「お正月リース作り教室」が開催されました。リースの縄を縛うところから始まり、かなりの重労働でしたが、楽しんで作っていました。



まずはリースの土台づくりから



縄を三つ編みにします。力仕事なので、二人がかりで。



すてきなリースが完成！



好きな飾りを貼り付けていきます。

写真展「私たちは稚内に住んでいます！」



地域生活支援推進事業を委託している稚内日口経済交流協会が写真展を開催しました。この写真展は、樺太残留邦人が日本への帰国を果たし、家族とともに生活できることへの感謝を表すために企画され、稚内で互いに支え合って暮らす帰国者の姿を垣間見ることのできる内容となっています。稚内市日口友好会館の1階に10月から12月まで展示され、市民や支援者のみなさんが足を運びました。

「残留邦人が体験した苦難」



11月10日中国残留邦人等支援に係る研修会を北海道と共同開催しました。

研修会には厚生労働省、帰国者支援にあたる道内の8つの自治体の担当者、支援・相談員が出席し、帰国者支援に関して情報・意見交換の時を持ちました。今回はウクライナから避難してきた樺太残留邦人の支援の取り組み状況について、旭川市からの報告もありました。

一連の説明事項、報告の後は、中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部太田満さんの講話に耳を傾けました。「サハリン残留日本人女性の戦中・戦後」という題で、20歳で敗戦を迎え、84歳でようやく帰国を果たした日本人女性の苦難の生涯が語られました。家族のために帰国を思いとどまり、事故で脚を切断した夫の面倒を最後まで見るという約束を果たし、「サハリンではやれることをすべてやった」という女性の姿からは、一本筋の通った強さが感じられ、心を打たれます。

残留邦人がどのような人生を送ってきたか、内側に何を秘めているのか、そのことを垣間見る貴重な時間となりました。

2月・3月の予定

2月22日	餅つきと試食の文化体験
2月14日	介護予防サロン（手稲前田）
2月19日	介護予防サロン（もみじ台）
2月27日	アイヌ伝統文化体験
3月14日	介護予防サロン（手稲前田）
3月19日	介護予防サロン（もみじ台）

編集後記

残留邦人の苦しみを生み出したのは戦争です。今も新たな苦しみが生まれているのかと考えると心が痛みます。

「身近にある相談できる場所」



11月21日の医療・介護クラスの特別講座は「介護保険と身近な相談窓口について」という

テーマで、介護保険制度と地域包括センターの役割について学びました。手稲区第1地域包括支援センターの社会福祉士の寺口真衣さんが、介護保険の申請の流れや利用の仕方を、具体的な事例やクイズを交えてわかりやすく説明してくれました。また、地域包括支援センターが、介護全般について相談できる窓口となっていることも知ることができました。介護保険の申請の過程、特に帰国者の多くが苦手とする申請書の記入についても相談できます。出席者は自分の最寄りの地域包括支援センターを確認しておくことを勧められました。いざという時どうしたらいいのか、身近に相談できる場所があることが安心につながります。

グラスアート教室、再び



昨年、一度だけ開催され中止となっていたグラスアート教室に11名のみなさんが初挑戦しました。



夫婦で挑戦

親子で挑戦



完成間近！